

令和4年度がスタートしました。今年度は2コース6フィールドによる新たな教育体制に加え、夏の校舎移転と、将来を見据えた新生龍谷構築の大きな節目の年となります。

その過程を出来る限りリアルタイムに伝えられるよう、校長室からも日頃の「雑感」を簡単に綴ってまいります。ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.78

R4.10.3 「オープンスクール」

3日間にわたる「オープンスクール」を無事終わりました。各中学校からは沢山の生徒の皆さん、並びに保護者の皆様に足を運んでいただき、感謝の思いでいっぱいです。

また、引率や参加数及び体験講座の集約等にご尽力を賜りました、各中学校の校長先生はじめ担当教諭の皆様方には、改めて厚く御礼申し上げます。



移転後、初のオープンスクールということで不安もありましたが、中学校の皆様のご理解やご配慮のお蔭で、とても良い雰囲気の中で実施することができました。本校の魅力を少しでも多くの中学生の皆さんに伝えられたのなら幸いです。



今年度の入試イベントはこのオープンスクールをもって終了となりますが、他にもお知りになりたいことやご不明な点がありましたら、いつでも個別に対応させていただきます。お気軽にご連絡ください。



また、ホームページには入試情報をはじめ、進路実績、学校行事、部活動成績、各種通信に至るまで様々な学校関連情報を紹介しています。ご覧いただければ嬉しく思います。

なお、Web出願等に係る入試案内情報も、準備出来次第、順次掲載していきます。

今後とも「新生旭川龍谷高校」をどうぞよろしく願いいたします。

R4.10.4 「芸術教室」

人格の完成を目指す豊かな感性や創造性の涵養を目的に、年に一度外部から芸術団体をお招きし「芸術教室」を実施しています。音楽、演劇、伝統芸能など日常生活ではなかなか味わうことのできない本格的な芸術に触れることで、新しい意味や価値をつくり出す創造性を育んでいきます。



今回お招きしたのは、東京サロンシンフォニーオーケストラ。音楽本来の楽しさを若い世代に伝えるため、生徒と近い位置で、楽器に触れ、音楽を身近に感じてもらうことを主眼としているキャラバン隊です。

正式メンバーによる名曲コンサートはもちろん、楽器の解説や演奏・指揮者体験、吹奏楽とのコラボなど、生徒と一体になった芸術教室となりました。



R4.10.5 「後期生徒会HR役員・総務役員任命式」

10月1日から後期の教育活動が始まりました。それに合わせて生徒会総務役員・HR役員も新しい顔ぶれに変わりました。前期役員の皆さんは、コロナ禍で活動が大きく制限される中、様々な工夫を凝らしながら良い思い出となる学校行事を企画・運営してくれました。本当にお疲れさまでした！

いま、後期役員の皆さんにバトンが渡りましたが、役員の方々の皆さんだけを頼るのではなく、在校生の皆さん自身が自発的に学校づくりに関り、互いに協力し助け合い、より良い環境を作ってくれることを期待しています。



R4.10.11 「全区間で『区間賞』、快挙です！」

達成感溢れる笑顔で校長室に来てくれたのは、陸上女子駅伝部の皆さん。9日(日)に網走スポーツ・トレーニング特設駅伝コースで行われた駅伝道予選会で7年連続10度目の優勝を飾りました。これで全国大会はなんと11回連続での出場(8年前に2位枠で出場したことが1度あります)となります。「あっぱれ!!」

今回のレースは単に優勝というだけでなく、5区間全てで「区間賞」という快挙を成し遂げました。その区間賞を手にした4名(2区を走った3年生 石川 莓さんは残念ながら都合で来れませんでしたが)の皆さんが、当時の心境を語ってくれました。

2年生 中野 芽衣さんはトップバッターという重責から、スタートまでは緊張したそうです。「昨年は4区、今年は1区と距離が長くなった分、ペース配分が難しかったです。」と言いつつも、ラスト1kmは誰もついていけない速さでチームを活気づけました。



2区の石川 莓さんから襷を受けたのは、3区の2年生 益塚 稀さん。「自分のペースを作るのが難しい状況でしたが、スタートから速めのペースで走り抜け、最後までねらいどおりの走りことができました。」と、2位により大きな差をつけました。

4区は3年生 工藤 凜さん、1年の時に思いがけない怪我をし、思うように走れるまで随分辛い思いをしました。そうした壁を乗り越え、見事

「区間賞」に輝きました。「プレッシャーもありましたが、自分の目標タイムをクリアすることが出来て嬉しいです。」と目を輝かせていました。

アンカーは2年生の山本 望結さん、「前のみんなが必死につないでくれた襷、そしてチームの思いが自分を勇気づけてくれました。皆の思いを感じながら、普段どおりの走りが出て良かったです。」

全区間「区間賞」による完全制覇でしたが、彼女たちの目は既に都大路に向いています。当日は誰が走るかわかりませんが、皆が口を揃えるのは「1時間9分台、今度こそ念願の入賞!」。部長さんを中心に、これまで頑張ってきた駅伝チーム全部員の偉大な力と誇りを、都大路で思いっきり見せつけてきてください。応援しています!

One for all, All for one. No.82

R4.10.12 「学校公開デー」

年に2度実施している「授業公開」に、今年も多くの保護者の皆様がご来校くださいました。新校舎になってから初めての公開デーということもあり、お子様の授業風景に加え、新たな設備等にも関心を持っていただけたのかもしれません。

高校は中学校に比べ足を運びにくい雰囲気があるようですが、決してそんなことはありません。私どもは、学校でのお子様の様子はもちろん、日頃の学習風景や教育活動を多くの皆様に見ていただきと思っています。

また、保護者の視点からのご意見は、学校改善のきっかけにも繋がります。次回もお誘いあわせの上、多くの皆様にご来校いただくことをお願い申し上げます。

ご出席の皆様、有り難うございました。



R4.10.13 「秋の避難訓練」

新型コロナ感染拡大の影響から、しばらく遠ざかっていた「避難訓練」を新校舎でようやく実施することができました。



前の校舎とは勝手が違い、混乱を招きほしくないかと一抹の不安もありましたが、生徒たちは教科担任の指示に従い速やかに避難行動をとるなど、杞憂に終わりました。

予め決められていた避難経路も守られ、狭い廊下ではありましたが列を崩すことなく避難場所に急ぐ姿が見受けられました。目立つ私語もなく、しっかりとした避難行動であったと思います。

同時に、避難訓練を実際に行ってみてわかる改善点もありました。学校の構造や効率的な避難経路、周囲を見極めての冷静な判断など、私たち教職員も生徒の安全を第一とする避難対策の強化に引き続き努めていかなければならないことを痛感しています。

R4.10.15 「ユネスコスクール活動実践」

本校は市内唯一の「ユネスコスクール認定校」として、15日にアートホテルで開催された「第55回北海道ユネスコ大会 in 旭川」に参加してきました。

大会では、「SDGs × 仏教」の考え方や報恩感謝の心を大切にする活動についての報告をはじめ、「ジェンダー平等の実現」や「文化の多様性の尊重」に関連した具体的実践などについて紹介させていただきました。



終わりに、後期生徒会長の 本村 啓州君がユネスコスクール認定校として「声明文」を読み上げ、会場からも共感の拍手が沸き起こりました。

今後も活動の輪を広げ、教育、科学、文化の発展と推進に生徒が独自の発想と実践をもって主体的に関与し、それが世界の平和へとつながっていくことを願っています。

R4.10.20 「文化連盟賞に輝く！」

3年生の丸田 彩乃さんが、高文連書道展で最高賞となる文化連盟賞を受賞しました。作品は「半切」と呼ばれる縦長の和紙に、得意とする「造像記」を書ききりました。

造像記とは、千五百年以上も前の中国で、仏像を作る際にその発願者や製作の由来等を仏像の傍らに刻したものの総称を指します。

「先輩が書いていた作品に魅了され、この造像記の虜になりました。」と言うように、出品作も独特の「とめ」や「はらい」に注意しながら何枚も書き込んだそうです。

「先輩の作品に憧れ、その感動を糧に取り組んできた結果だけに、今回の受賞は素直に嬉しいです。」と喜びを語ってくれました。

「書道部は書くことの楽しさだけでなく、先輩や後輩たちと将来を語り合ったり、時には他愛もない話で盛りあがったりと、一緒に過ごせた時間が全て良い思い出です。」と実り多き3年間を振り返ります。

将来は大学に進み有機化学について学びたいと、勉学にも余念がありません。

進路目標の実現を心から応援しています！



One for all, All for one. No.86

R4.10.20 「見学旅行結団式」

見学旅行を22日（金）に控え、最終確認を兼ねた「結団式」を執り行いました。昨年、一昨年とコロナ禍のため実施を断念せざるを得ませんでしたが、今年度、漸く実施に踏み切ることができました。



とは言え、コロナ感染者数の高止まりは、国内どこに行っても予断の許さない状況です。

最高の思い出にするためにも感染防止対策を万全にし、生徒、教師はじめ旅行者の皆さんが一丸となって成功に導くことを確認しました。

One for all, All for one. No.87

R4.10.22~26 「見学旅行」

関東・関西・沖縄と、3コースに分かれての見学旅行から帰りました。どのコースとも天候に恵まれ、当初の予定どおりの行程をまわることができました。見学旅行は卒業後も必ずと言っていいほど話題にのぼる一大イベントです。

異なる歴史や文化、風土に触れることで視野を広げ、時間を守ることや挨拶の励行、他者の気持ちに配慮しながら自己の役割を果たすことで、人間的にも大きく成長したと思います。



R4.10.28 「1学年進路ガイダンス」

新たな教育システム「フィールド」による授業が現1年生からスタートします。個々の興味・関心や進路と直結する選択科目を適切に選べるよう、この時期に系統別進路ガイダンスを設けました。

「IT・プログラミング」、「スポーツ・メディカル」、「看護・福祉」、「進学・公務員」の各フィールドと関係する25の上級学校から講師をお招きし、様々な職種の必要資格や業務内容について具体的に説明していただきました。

将来の自分の生き方を探究していく中で、より高いモチベーションを持ち有意義な高校生活を送ってくれることを期待しています。



R4.10.31 「書道展で推薦」

全道学校書道展で2年生の對馬 瑠花さんが、見事「推薦」の荣誉に輝きました。作品は、唐を代表する顔真卿（王羲之と双壁をなす書家）の「裴將軍詩」です。



「技術的にも難しい書体でしたが、顧問の先生に勧められ挑戦してみました。筆圧の強弱、文字の大小、全体のバランスや気脈などで、全然違う作品が出来上がるのも書の魅力です。」と語ってくれました。

最近、音楽に合わせ大勢で大作を創り上げるパフォーマンスにも力を入れているようです。

「パフォーマンスは、皆で何度も話し合い検討を重ね上げていきます。ある意味、作品を書くより大変です。」と楽しそうに語る姿からは、書道部の心地良い雰囲気伝わってきます。

R4.10.31 「100mで全国7位入賞！」

JOC ジュニアオリンピックカップ第16回U18陸上競技大会「種目U18男子100m」で、2年生 安藤 迎君が10秒68の好タイムで全国7位に入賞しました。全国大会に出るだけでも大変なことですが、目指すは同世代の頂点ですから「凄い！」としか言いようがありません。

個人種目として全国を経験するのは今回が初めてでしたが、あらゆるプレッシャーを跳ねのけ予選をトップで通過、決勝では並み居る強豪と僅差を競い合いました。

「走ることに集中していたので、それ程緊張はしませんでした。2年生で全国大会決勝を経験できたことは今後の練習の大きな糧になります。」

短距離は特にスタートが勝負。「オフの期間にしっかりと練習します。」と、既に来春の大会を見据え計画も万全です。

「アスリートとして全国優勝を目指すことはもちろん、スポーツマンとして人間性をさらに磨いていきたいです。」と今後の抱負にも期待が膨らみます。

